

富 山 県 高 体 連 研 究 部
平 成 1 2 年 度 報 告

第 5 分科会

「普及」－今、求められる部活動－
(合同部活動に関する調査)

<はじめに>

ここ数年、生徒減や生徒の運動部離れが影響して、部員不足のため公式戦に参加できない運動部活動が増えてきている。また、部員不足は、日々の運動部の活動にも大きな影響を及ぼし、廃部（休部）の危機にさらされている運動部活動も少なくないようである。一部他県では、このような運動部活動に対して、再び活動の場を提供することを目的として、他校と合同での部活動が試みられたり、複数校合同での大会出場の可能性が模索されたりしている。このことは、本県の現状と照らし合わせてみても、非常に興味深い試みであると思われる。

研究部の第5分科会では、この合同部活動、複数校での大会出場について、各学校での実態と今後に向けてどのような考えを持っているかを調査し、運動部活動の活性化に役立てていきたいと考え、今回の調査を実施した。なお、調査用紙の記入は、各学校の特活部主任または、同等の役職の先生方に依頼したものである。

<集計結果及び考察>

1. 部員不足が原因で公式戦に参加できなかった部活動の有無について（過去3年間）。

ある	72.2%	(39/54)
ない	27.8%	(15/54)

2. 1であると答えた部活動の内訳。

バレーボール（男女）	14	バドミントン	3
ソフトボール（男女）	12	テニス	2
ハンドボール（男女）	11	なぎなた	2
バスケットボール（男女）	8	新体操	2
柔道（男女）	8	スキー（男女）	2
卓球	6	山岳（男女）	2
剣道	6	レスリング	1
野球	5	駅伝	1
サッカー	4	水球	1
ラグビー	4	ホッケー	1
ソフトテニス	3		

（1, 2に関する考察）

過去3年間で公式戦出場が不可能なくらい部員不足になった部活動がある学校は、全体の2/3以上にのぼる。これは、近年の生徒減や生徒の運動部活動離れが原因と考えられる。出場できなかった部活動を競技別にみると、チーム編成に多くの人数を要する団体競技に頻度が高く、今後も続く生徒減の現実を考えると深刻な問題である。

3. 合同部活動についての賛否とその理由。

賛成	50.9% (27 / 53)
反対	22.6% (12 / 53)
その他	26.4% (14 / 53)

賛成理由

・やる気のある生徒の意欲が尊重できる	11
・活動内容が充実し、活性化する	5
・教育的意義が大きい	4
・諸条件を整えば賛成（安全管理、責任の所在）	3
・公式戦に出場する意義は大きい	3
・試合ができることは良いことである	2
・中学での地域クラブの活動の延長と考えることもできる	
・活動場所の確保が容易になる	

反対理由

・整えるべき条件、問題等が多すぎる	8
・どこに目標をおいて指導するのか難しい	
・生徒同士の意志疎通が難しい	
・部活動は学校対抗であるから	
・勝負の意識が低下	
・社会体育及びクラブへの移行なら賛成	
・反対ではあるが、部員数がチーム編成に満たない場合は、いたしかたなし	

その他

・良い点、悪い点ともあり、どちらともいえない	10
・団体戦の大会出場等、問題点もある	3
・社会体育へ移行を視野に入れるべき	3
・双方が了解のうえなら、ある程度仕方ない	

(3に関する考察)

「合同部活動」については、約半数が「賛成」の回答をしている。「賛成」意見の多くが、生徒の意欲を尊重し、できるだけ場と機会を与えたいというものである。また、部活動の教育的な意義を理由にあげる意見も目立った。一方、「反対」意見には、責任の所在、安全の保障等の条件整備の方が先決であるというものが多数を占めている。このような諸条件の整備を必要と考える意見は「その他」の理由の中にも多くみられた。また、「賛成」意見の中にも条件整備を前提としたものがあり、学校現場での現状を考えるともう少し準備期間が必要なのではないかと考えられる。

4. 合同部活動を実施している部活動の有無。

ある	1. 9% (1 / 54)
ない	98. 1% (53 / 54)

5. その部活動名、顧問の数、合同で活動を行った学校数及び各学校長の打ち合わせの有無について（合同部活動実施校対象）。

部活動名	ソフトボール	水球
顧問の数	3	4
学校の数	2	2
各校長の話	○	○

6. 合同部活動における健康上、安全上の問題点について（合同部活動実施校対象）。

ある	0 / 1
ない	1 / 1

（4, 5, 6に関する考察）

「合同部活動」の実施状況については、1校、2部活動での実施の回答があった。これは、2000年富山国体に向けた強化の一環として行われたものだと考えられる。「合同部活動」には、必ず相手校が存在するはずであるが、他校の回答の中に「合同部活動」の実施が「ない」と回答されているのは、「合同部活動」そのものに対する認識が、それぞれによってかなり曖昧である事から生じていると考えられる。

7. 複数校体制での大会への出場についての賛否。

賛成	42.3% (22/52)
反対	23.1% (12/52)
その他	34.6% (18/52)

賛成理由

・具体的な目標ができ、動機づけになる	4
・すべての生徒にチャンスを与えたい	4
・合同部活動を認めれば、大会出場も認めるべき	2
・希望すれば、認めるべき	2
・大会に参加できる可能性が高いほうが良い	2
・大会に活気が出る	2
・学校の特色ある活動が存続できる可能性が増える	2
・競技人口の確保が大切である	
・生徒の技術力、体力の向上が図れる	
(条件付き賛成)	
・合同の基準等の整備ができるのなら賛成	4
・競技力格差を少なくし、勝利至上主義に走らぬ配慮が必要	
・クラブチームとして参加すればよい	

反対理由

・参加基準、責任の所在等、整えるべき条件や問題点が多い	7
・指導者が生徒の把握をしきれない	2
・指導目標があいまいになる	2
・練習の量、質の差がある	
・合同練習が難しい	
・生徒同士の意志疎通が難しい	
・勝負の意識が低下	
・強い選手だけ集めたりしそうである	

その他

・問題点が多く、具体的には難しい面がある	7
・どちらともいえない	3
・学校対抗であるため、限界がある	3
・ルールづくりが大変である	
・チームワーク等考えると難しい	
・クラブチームとして出場したほうがよい	
・全国大会へつながらない大会なら	
・少子化の面で将来的にはやむなし	
・強い選手だけ集まってチームを作ってしまうことがあってはいけない	

(7に関する考察)

「複数校での大会参加」についても、「合同部活動」と同様のとらえ方がされており、大会への出場を通して、目標を明確にし、生徒の意欲を高めていきたいという反面、やはり、諸条件の整備が必要であるというとらえ方が多くみられた。また、反対意見の中には、「全国大会の予選会では不公平が生じる」、「強い選手だけ集めたりしそう」、「指導者の力が入らない」等、単独校での出場という立場での「学校対抗」を意識した意見もみられた。

8. 複数校体制での大会出場が認められた場合の問題点（複数回答）。

・練習場所の確保	46.6%
・練習日の調整	59.3%
・練習時間の調整	66.7%
・活動場所までの交通手段	79.6%
・生徒、顧問、保護者との連携の難しさ	68.5%
・トラブルが生じた場合問題解決に時間がかかる	48.1%
・校務等の都合で付き添いできない場合がある	63.0%
・付き添い手当の基準	25.9%
・活動中、事故や傷害が生じた場合の責任の所在	83.3%
・活動中事故や傷害が生じた場合、日本体育学校センターの給付金の対象になるか	29.6%
・その他	

・毎年維持していけるのか
・大会参加費等の金銭的問題
・指導者確保の問題がある
・学校対抗という考えを変える必要が出てくる
・全国大会出場資格。
・複数校チームが強ければ、大会出場に不満が出るかもしれない
・勝負の意味が薄れる
・目的意識の違い
・部員不足以外の合同チームをチェックできるか
・日頃から指導者の間に交流があることが望ましい
・種々の学校差をあまり感じない学校で行うことが望ましい

9. 公式戦に参加できなかった部活動に対する学校としての対処について

・現在のところは、特別な対策をとっていない	36
・部活動の統廃合を含め検討中	4
・参加できない部はない	3
・各顧問に努力してもらっている	3
・他の部からの補充	2
・検討中	2
・何故部員不足をおこしているのか問題点を考え、その上で考えたい	
・次回大会に参加できるよう選手確保に努力している	
・入学時の部員勧誘システムを見直して部員の増加をはかる	
・各顧問の努力が必要	
・経験者への依頼	
・公式戦に参加することに目標をおいて、生徒と努力することも大切	
・校内の他過程とチームを組みたいが、問題点が多く実現は困難である	
・スポーツクラブ等で活動している生徒もあり、学校だけでは対処できない問題	

（9に関する考察）

公式戦に参加できなかった部活動に対する学校側の対処については、ほとんど何も対処されていないのが現状である。加えて、校内での部活動の統廃合という意見もあり、部員不足にさらされている部活動の現状は、非常に厳しいものになってきていると言える。

この点から考えても、「合同部活動」及びその延長線上にある「複数校での大会参加」を学校部活動の一つの方向性として、とらえていく必要があるのではないだろうか。また、少数ではあるが、「スポーツクラブへの移行」という考え方もあり、今後の課題となりそうである。

< 合同部活動実施に向けた課題 >

合同部活動を取り入れようとする学校側の積極的な姿勢。
勝利至上主義に陥らない指導者側の部活動に対する柔軟なとらえ方。
大会運営及び日常的な活動に必要な諸条件の整備。

< 反省 >

「合同部活動」、「複数校での大会参加」、この二つの言葉の定義が曖昧なまま、調査を行った結果、回答する側にとっては、回答しづらい部分が多かったのではないか。また、回答されたアンケート結果から、正確な実態や学校側の意識が調査できたかは疑問が残る。今回の調査何らかの形で問題提起できれば幸いである。

< 今後の研究の取り組み >

- ・ 部員数の減少によって活動に支障をきたしている部活動部員、及び指導者への意識調査。
- ・ 合同部活動の可能性を探るための各指導者及び専門部に対する調査。